

令和3年度学校評価総括表

斑鳩町立斑鳩小学校

教 育 目 標	「らんらん(爛々)」 語彙は、きらきら輝くさま。『瞳輝かせ、笑顔であいさつし、生き生きと自ら学ぶ子の育成』を教育目標として象徴的に表す。		総合評価
教 育 方 針	本校の教育は、「日本国憲法」・「教育基本法」に定められた教育の根本精神に基づき、奈良県教育委員会の「学校教育の指導の重点」をふまえ、斑鳩町教育委員会の指導のもと、積極的な教育実践を推進する。 教室の窓から、ユネスコ世界文化遺産リストに日本で初めて登録された法隆寺が見えるという位置にある斑鳩小学校は、今年で創立134年。「斑鳩町教育理念一育てよう和の心一」に基づき、豊かな人間性と創造性を備えた、将来に持続可能な力を持ち、社会の発展に貢献する人間の育成に努める。		
学校経営ビジョン	めざす学校像	めざす教師像	めざす児童像
	○あいさつがこだまする学校 ○優しさがあふれる学校 ○児童が生き生き活動する学校	○わかる授業を創造する教師・・・（創造・意欲） ○日々研鑽と修養を志す教師・・・（進取の気質） ○笑顔で接し、児童と共に歩む教師 ・・・・・・・・（明朗・児童理解） ○厳しくも心温かく導く教師・・・（愛情・情熱） ○家庭を理解し、地域にとけ込む教師 ・・・・・・・・（地域連携）	○自ら学ぼうとする子・・・・・・・・・・（知） ○互いを認め支え合う子・・・・・・・・・・（徳） ○元気な子・・・・・・・・・・・・・・（体） ○夢をもち、たくましく生きる子・・・（夢） ○斑鳩を愛する子・・・・・・・・・・・・（誇り）
前年度の評価と課題		今年度の重点目標	
○コロナ禍にあって、教育活動に制限がかかり、児童の安全・安心に配慮したため、本来の活動が十分にできず、中止した活動も多かった。今年度は、できる方法を考え、できることをできるようにするという考え方で進めたい。 ○家庭学習に関する保護者アンケートで、前年度比較で25ポイント以上肯定的な評価が下がった。宿題をしてこない児童は増えてはいないが、自主的に発展的な内容まで取り組む児童が少ないものと考えられる。 ○不登校を始めとした個々の児童に合った課題解決において、ケース会議や校内委員会等をもとに組織的に対応を進めた。まだまだ個人差があり課題が残った。 ○「働き方改革への取組」はまだ途上である。教職員の意識改革とともに、重点化、効率化を図る。 ○学校評価アンケート（保護者・児童）で、概ね肯定的な評価結果が多かったが、いくつかの課題も見られた。学校計画訪問によって評価・指導受けたことを糧に改善していく。		○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりを進める。 ○児童理解を図り、課題解決に向け組織的・計画的な対応を進める。（不登校・配慮の要する児童等） ○認め合い、なかまとともに向上しようとする集団づくりをすすめて、心と体の教育の充実を図る。 ○WEBページや学校だより等を活用して積極的に情報発信し、保護者・地域と連携して教育目標の達成を図る。 ○重点化、効率化に基づいた働き方改革を推進する。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標 ○方策等 ●指標	評 価		成 果 と 課 題 (評価の分析) ○考察 ●アンケート結果	課 題 の 改 善 策 等	学校関係者評価
学力の向上	「主体的・対話的で深い学び」につながるよう授業改善に努める。	○「互いを認め合い、伝え合う活動を通して学びを深める児童の育成」の主題のもと、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、振り返りの充実から授業改善、授業力向上を図る。 ○一人1台のタブレットを有効に活用した授業を行う。 ○全国学力・学習状況調査問題の結果を分析し、児童の状況把握に努める。 ●教職員アンケートにおいて、85%以上が肯定的な評価をしている。	B	B	○研究主題を意識し、主題に基づいた授業づくりに務めることができた。めあてと振り返りについては定着してきた。活動を通して授業が分かるようになったと感じている児童も多く見られる。一層の充実を図りたい。 ○タブレット端末の活用は進んだ。目的ではなく手段であることを確認したうえで、有効活用を図りたい。 ●主体的、対話的で深い学び 教職員 78.9% ●主題を意識した授業 教職員 89.5% ●めあてとふりかえり 児童 83.8%	・学習活動に制限のある中で、できる範囲でできることに取り組めた。引き続き工夫を重ねながら、対話的な学びを追究していきたい。また、対話的な学びのモデルを共有し、取組につなげたい。 ・各種調査結果から見えた児童の課題に基づき、授業改善につなげていきたい。 ・問いを中心とした授業づくりをはじめ、新たな視点も取り入れた授業を通して児童の学力向上につなげたい。	学年が上がるにつれて、勉強を楽しんでいると感じる児童が減少している。タブレットが楽しいと感じる児童も多いことから、有効に活用するとよい。制限のある中、取り組むのは大変な労力だったと思う。授業モデルの共有はぜひ進めてもらいたい。
	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	○朝の時間にプリント学習「朝トレ」に取り組み、基礎・基本的な内容の定着を図るとともに、学ぶ習慣を身に付けさせる。 ●児童・保護者・教職員アンケートにおいて85%以上が肯定的な評価をしている。	B	B	○朝トレは計画に基づき進めることができた。 ○全国学力・学習状況調査の結果、これまで最も全国平均との正答率が下回った。特に国語はその差が顕著で、感じを含めた言語領域に大きな課題が見られた。 ●基礎学力の定着 教職員 92.1% 保護者 88.4% 児童 92.5%	・全国学力・学習状況調査の結果、課題が明らかとなった漢字の学習について、使用ドリルを統一することとともに、意味を含めた言葉としての漢字を学べるようにする。 ・朝トレでは、漢字中心の取組を進める。	朝トレは児童の意欲の向上につながっている。漢字の取組は期待している。基礎学力は一朝一夕に定着するものではないので計画的に取り組んでももらいたい。課題を分析し、きちんと対応しているのは評価できる。
	英語専科教員を活用して外国語・外国語活動を推進する。	○歌やゲームで英語の音や表現に慣れ親しみ、簡単な英会話を使って自分の気持ちを伝えることができる。 ●児童アンケートにおいて80%以上の児童が「英語の学習は好き」と肯定的な評価をしている。	A	A	○英語専科教員がコーディネーター的な役割を担い、指導案の作成や教材の準備等、英語教育の推進を図っている。 ○昨年度に引き続き、オンラインで樺原市内の小学校と交流した。さらに、オーストラリアの学校とも交流を行ったが、いずれも児童の興味・関心を高めることができた。 ●アンケート項目の中に該当するものは含めていない。	・更に英語に慣れ親しみ、授業に進んで参加出来るように授業改善を進めていきたい。 ・これまでの取組の蓄積の上に、指導を続けていく。	楽しみながら英語に親しむことができていると思う。海外との交流は児童にとっても重要な経験であり、今後もつづけてもらいたい。
	家庭学習の充実を図る。	○昨年度、保護者アンケートで前年度比25ポイント以上低下したことから、改訂版「家庭学習の手引き」の内容を見直し、配布する。そのなかで、自主学習も啓発する。 ●「家庭学習に関するアンケート」を実施し、家庭学習の実態を把握する。 90以上【A】 80～89%【B】 70～79% 【C】 70%以下【D】	A	A	○従来の家庭学習の手引きを改訂し、留意点を絞って、家庭学習の大切さを訴えたことにより、定着化が図れた。 ○8と5のつく日を「パゴの日」として、自主学習を含めた家庭学習に取り組む日と設定し、啓発した。 ●保護者 90.8% (昨年度比+23.9P) 児童 90.3%	・「パゴの日は家庭学習」という意識が定着し、浸透している。今後もこの取組を続けていきたい。タブレットの家庭での活用も進めており、ミライシードを用いるなどの工夫も続けた。 ・読書の二極化が見られ、「本を読まない」児童が増えている。家庭学習の中にも、読書を取り入れるなどしていきたい。	ミライシードはとても活用できている。パゴの日の設定は児童にとって良いきっかけとなっている。読書については、ボランティアとも連携するとよいと思う。

健やかな心の育成	児童相互、児童と教師との関わりを大切に、豊かな人間性の育成を図る。	○ いじめアンケートを計画的に実施し、いじめの早期発見・対応及び未然防止に努める。 ○ 教育相談部を有効に機能させ、不登校傾向をはじめ配慮を要する児童に対し、組織的・計画的な対応に努める。 ○ なかまとともに成長しようとする児童の育成のため、特別活動部を設け、縦割り班活動を充実させる。 ● 児童・保護者・教職員アンケートにおいて85%以上が肯定的な評価をしている。	B	B	○ 年2回のいじめアンケートを行い、早期発見、対応、未然防止に努めた。懸案事項については、SSWとも連携を図ってケース会議を開いたり、教育相談部会を開いたりするなどして組織的な対応を心がけた。 ○ 月1回の生徒指導部会での情報交換により、児童の状況把握や指導方針の再確認等を行い、指導の徹底を図っている。 ○ 不登校児童や配慮を要する児童については、町教委や町福祉子ども課など関係機関と連携を図りながら対応に努めた。 ○ 活動に制限があったが、今年から縦割り班活動を始め、異学年交流の活性化を図った。児童も好意的にとらえており、今後につなげることができると思える。 ● いじめ対応の取組、児童の意識 教職員 89.7% 保護者 71.9% 児童 97.6% ● 縦割り班活動 教職員 74.3% 児童 88.3%	・ いじめはどこにでも起こるものとならえ、認知件数の減少はもちろん、事後の取組によりいじめが解消した件数を増やすことを目指したい。そのため、校内組織を生かしていじめの早期発見・対応・未然防止に努めたい。また、すべての児童がより良い人間関係を築けるように人権教育を推進していく。 ・ 不登校児童への対応については、保護者との連絡を密にし、関係機関との連携も図りながら継続的に対応していく。 ・ 教職員と保護者の意識に乖離が見られる。また、「分からない」という回答が多いことから、学校の取組を一層積極的に発信して、保護者の理解を得るようにしたい。 ・ 今年度満足にできなかったが、縦割り班活動の活性化を図り、異学年の人間関係を豊かにしていきたい。	いじめは早期発見が大切。現在の取組を継続し、引き続き未然防止に尽力してほしいが、早期発見、情報共有のツールはあるのか。周りの児童からも情報収集できるようにしてほしい。関係機関との連携を維持しつつ、家庭との連携の強化を図っていくことが必要だと思う。不登校対応も継続的に取り組んでもらいたい。児童アンケートではいじめはいけないと認識しているにもかかわらず、いじめが起きていることから、どのような行動がいじめにつながっているのか指導が必要ではないか。縦割り班活動は良い取組だと思う。
	AKRを合言葉に「あいさつ」「けじめ」「礼儀」ができる児童の育成を目指す。	○ すすんであいさつすること、廊下歩行など前年度課題となったことを、教職員全員が共通理解を図りながら、徹底して指導する。 ○ 3年生の総合的な学習の時間や必修クラブに「能」の学習を取り入れる。 ● 規範意識に関する児童・保護者・教職員アンケートにおいて、85%以上が肯定的な評価をしている。	B	B	○ 全校朝礼を始め、機会あるごとにAKRも触れながら指導をした。廊下歩行やあいさつは継続して取り組めた。 ○ 能学習については、次年度から指導体制も変わるが、学校の特色ある活動として継続していくことを確認できた。 ● 規範意識の醸成、決まりを守る 教職員 97.4% 保護者 87.3% 児童 88.9% ● あいさつ 教職員 97.4% 保護者 74.4% 児童 86.5%	・ 繰り返し指導し、児童の意識付けを行っているが、「すすんで」あいさつできるよう指導を重ねたい。 ・ 廊下歩行は重点に掲げたこともあり、取組みが進んだ。他に課題がある場合も、力点を置いて取り組む。 ・ 「能学習」は次年度以降も継続して行う。推進体制を見直し、だれもが負担感なく取り組めるようにしていきたい。	能の学習は郷土学習という観点からも有意義だと思う。また、AKRが見事に含まれた学習として有意義であり、特色ある取組として誇らしく思う。児童と一緒に先生方も学ぶことに大きな意味がある。
	教育活動全体で道徳的心情を育て、規範意識と道徳的実践力を高める。	○ 「特別の教科 道徳」で伝えて考える授業づくりを進めるなど、教育活動全体で道徳教育に取り組む。 ○ 自尊感情を培い、自他を大切にできる態度を育むことを中心に、人権教育に取り組む。 ● 児童・保護者・教職員アンケートにおいて85%以上が肯定的に評価している。	B	B	○ 特別活動部会を設け、縦割り班活動や集会活動を通して、自尊感情を高め自他を認め合える取組を進めた。活動に制約がある中、十分にはできなかった。 ○ 道徳の取組は、学年任せとなったところがある。全体計画を見直し、「考え議論する道徳」を目指したい。 ● よさを認め合う 教職員 78.3% 児童 95.6%	・ 特別の教科道徳の指導計画を見直すとともに、教育活動全体で取り組むようにする。 ・ よいところさがしなどの取組を通して、自尊感情を高めるように努める。 ・ 特別活動部会をさらに活性化し、縦割り班活動も進める。	異学年交流は工夫しながら増やしてもらいたい。理想とする年上の児童との出会いは子供の成長に大きな役割を果たすと思う。

たくましく生きるための健康・体力づくりの推進	運動好きの児童を育てる。	○ 体育の授業や外遊びチャレンジ、休み時間等に、多様な運動に取り組みせ、意欲的に運動できるようにする。 ● 85%以上の児童が「体を動かして遊んでいる」と肯定的に評価している。	B			○ 昨年実施できなかったマラソンは方法を工夫して行うことができた。 ● 体力向上の取組 教職員 79.0% 保護者 91.6% 児童 81.5%	・ 外遊びを推奨するとともに、体育学習において、教員の指導力向上を目指す。 ・ 外遊びチャレンジについて、工夫しながらできる運動から再開していきたい。	コロナ禍で制限はあるが、再開できるものから始めてもよいのではないかな。
	体力向上に向けた体育の授業改善に取り組む。	○ 体力向上プランをもとに、体育の授業改善につなげる。 ● 児童アンケートで85%以上の児童が「体育の授業が楽しい」と肯定的に評価している。	B	B	B	○ 感染対策のため、運動に制限がかかり、十分にはできなかったが、その中でも工夫して取り組んだ。 ● 体育の授業が好きな児童 89.0%	・ 今後の状況は分からないが、できる範囲で活動を再開していく。 ・ 各種調査をから見られる課題の解決につながる活動も取り入れたい。	児童が楽しんで授業に参加できるよう引き続き取り組んでほしい。ホームエクササイズを家庭学習に取り入れてもよい。
	健康的な生活習慣を身に付ける。	○ 保健だよりや給食だより等を通して健康教育と食育を推進する。 ● 児童・保護者・教職員アンケートにおいて、85%以上が肯定的な評価をしている。	A	B		○ 定期的な保健便りや給食便りの発行、また食育の授業を実施している。 ○ 新型コロナウイルス感染症対策として、密の回避、消毒、換気などに取り組むとともに、児童にもマスクの着用を始め、できることを徹底させた。 ● 健康教育の推進 教職員 66.6% 保護者 89.6% ● 手洗い、うがい、清潔な体 教職員 89.9%	・ アンケート結果を検証し、児童の健康面の課題や改善点を様々なたよりや学校保健委員会、学級懇談会等を活用して啓発し、基本的生活習慣の確立を図っていく。	お便りはとても役立つ情報を発信しており、有意義なので継続してほしい。地産地消の給食は良い学びになっていると思う。
特別支援教育	配慮を要する児童に対し、個々の実態に応じた適切な支援を行う。	○ 教職員間で共通理解を図るため、児童理解の研修を適宜行う。 ○ 通級指導教室と連携を図りながら、支援体制を充実させるとともに、個別の支援計画に基づいた指導を行う。 ● 教職員アンケートで85%以上が肯定的な評価をしている。	A	A	A	○ 職員研修として、特別支援学級在籍児童の児童理解を定期的に行った。 ○ 通級指導教室担当教員からの助言を基に、個別な対応の充実が図れた。 ● 合理的配慮に努めている。 教職員 97.5%	・ 個別に対応に必要な児童が目立つ中、教員の配置も工夫して指導してきた。次年度も個別指導の必要な児童が入学する見込みであり、個別の支援計画のもと丁寧な指導を行いたい。	外部の専門家と連携してみてはどうか。先生方は工夫して十分な対応をしていると思う。先生方に負担がないのか保護者は気にしている。
安全管理	事故等を未然に防ぎ、児童が充実した学校生活が送れる環境をつくる。	○ 教職員が危機管理意識をもち、施設設備の安全点検、児童の健康状態、学校行事の見直し等を通して、ヒヤリハットの情報共有に努め、事故を未然に防ぐ。	B	B		○ 校内施設、設備の安全点検を定期的に行った。また、校舎の老朽化に伴う不具合には、三角コーンを置くなどして対応した。 ● 環境整備、施設設備の整備 教職員 97.4% 保護者 77.8%	・ 教職員の危機管理意識の徹底を図るためにも、常に綱紀の肅正や服務に関して教職員に声かけを行う。 ・ 児童の安全・安心のために更なる安全管理並びに安全教育を進めていきたい。	児童からの声も収集してはどうか。引き続き対応をお願いしたい。
		○ 登下校の指導や通学路安全点検、不審者情報の提供、ボランティアとの連携を図る。 ○ 緊急下校訓練や不審者の侵入を想定した訓練を定期的に行う。 ● 児童・保護者・教職員アンケートにおいて、85%以上が肯定的に評価している。	B	B	B	○ コロナ禍の中、避難訓練は満足にできなかったが、経路の確認等できる範囲で実施することができた。 ○ 通学路の安全に関わる情報には、適宜対応した。 ● 安全な登校 保護者 95.2% 児童	・ 通学ボランティアのみなさんと連携を図りながら、児童の安全確保に努めたい。 ・ コロナ禍で、避難訓練は予定通りとはいかなかったが継続して行う。 ・ 実施できなかった引き渡し訓練は、方法を工夫して是非実施したい。	コロナ禍で制限はあっても災害や事故は起こりうるもの。できる範囲で効果的な訓練を期待する。

教員の育成	教員の指導力を向上を図る。	○校内巡回、授業観察を通して、個々の教員の課題を明確にする。 ○授業参観とともに自己申告シートに基づいて指導助言を行い、授業力の向上を図る。 ●学期に1回をめどに全教員の授業参観を行う。また参観後に振り返りを行い、個々の指導力向上を図る。	B	B	B	・管理職による計画的な授業参観を実施し、指導助言を行うことはできた。しかし、自己申告シートの有効活用は十分にできなかった。	・教員の指導力向上を図るためにも、校内巡回や授業観察を継続して行い、適切な指導助言に努めたい。 ・めあてと振り返りだけでなく、問いを大切に授業づくりについても進めていきたい。	授業参観は初めて知ったがよい取組だと思う。自己申告シートを有効活用し、さらなる指導力向上につなげてほしい。
		○授業研究等を中心とした校内研修を組織的に行い、一人一人の教員の指導の向上を図る。 ●年5回以上の研究授業を実施する。 ●従前行ってきたミニ研修会をさらに能動的に継続的に取り組む。	B			・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、満足に授業研究は行えなかったが、実施した授業後の研究協議では、活発な意見が交わされた。 ・自主的なミニ研修は実施できたが、全体でテーマを定めた研修を行いたい。	・少なくとも学年1本の研究授業を行い、指導力向上に努めたい。さらに教員が主体的に取り組む研修を構築していきたい。 ・ミニ研修では、互いが講師となって実践の交流を図りたい。	コロナ禍で大変なこともあると思うが、ぜえてひとも進め、指導力向上につなげていただきたい。
	教育の質の向上に向けたICT活用教育を実施する。	○推進リーダーを中心に、スキル向上や利活用の工夫に関する研修会を行う。 ○一人1台のタブレット端末の有効活用を図る。 ●全教職員がタブレット端末等ICT機器の活用能力を高め、利活用率を80%以上にする。 ●情報モラルの授業を年1回は行う。	B	B		○新型コロナウイルス感染症の影響もあり、タブレットの活用は一気に進んだ。夏休み明けにはオンライン学習を行い、3学期にはオンライン配信による授業も始めている。 ○教職員の利活用は個人差があるが、活用を広げていきたい。 ●タブレット端末の活用 教職員 65.8% 保護者 82.5% 児童 91.1%	・ICT担当主任のもと、授業研修を含めた実践的研修を進める。 ・GIGAスクール構想に基づくタブレットを活用した授業についての研修を進める。	タブレット端末の活用の必要性が増す中、先生方の技術向上のための研修も進めてほしい。
保護者、地域との連携	積極的な情報発信と情報提供に努める	○家庭訪問、電話連絡、連絡帳、学級だよりなどを通して保護者との連絡を密にする。 ○学校の教育活動をwebページや学校だよりなどを活用して広く発信する。 ●児童・保護者・教職員アンケートにおいて、85%以上が肯定的に評価している。	B	B	B	○児童理解や生徒指導面において、必要に応じて家庭訪問や面談を行い、保護者との連携を進めている。また、学校や学級の様子を学校だや学級通信、webページを通じて発信している。 ●保護者、学校との連携 教職員 96.2% 保護者 90.2% ●情報発信 保護者 97.6%	・これからも学級だよりやwebページなどを活用し、積極的に情報を発信していく。 ・教員が家庭訪問をはじめ、連絡を密にし、保護者との信頼関係を構築していく。	学級だよりは先生によって差があるのは残念だが、学校は積極的に発信していると思う。
	地域の人材や関係機関との連携を図る	○学習支援ボランティアを活用し、児童の学習の活性化を図る。 ○コミュニティ協議会を定期的に開催し、コミュニティスクール導入に向けた準備を進める。 ○小中連携、幼小連携など校種間の連携を進める。 ●保護者アンケートにおいて、85%以上が肯定的な評価をしている。	B	B		○新型コロナウイルス感染症対応のため、学習支援ボランティアの活用はほとんどできなかった。 ○コミュニティ協議会は1回のみ。2月は開催を見送ることになった。 ○次年度からの学校運営協議会やコミュニティスクールについての準備は遅れている。 ●アンケートに該当項目を設けず	・今後も活動に制限が入る可能性はあるが、できることから活動を初めて行く。 ・学校運営協議会の立ち上げのため、地域人材の発掘とともに、円滑にコミュニティスクールが進むような準備を行いたい。	できるところから優先順位をつけて取り組んでほしい。
業務改善	教職員の働き方改革を推進する。	○重点化・効率化を進めることで業務改善を図るとともに、勤務時間管理等の取組を進める。 ○校務支援システムを有効に活用する。 ●教職員アンケートにおいて、働き方改革について80%以上が肯定的に評価している。	B	B	B	○校務支援システムやGoogleの活用により、効率化は進んでいる。しかし、コロナ対応を始め、業務は減らず、教職員の意識改革も途上である。 ●働き方改革 教職員 76.1%	・校務支援システム、ICTの活用により業務の効率化は進んでいる。 ・教職員の一層の意識改革を図りたい。 ・勤務の割り振りやフレックスタイムの導入などにも本格的に取り組む。	コロナ対応で業務内容が拡大して、働き方改革はなかなか進みにくいと思う。柔軟な働き方はできないのかと思う。